

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098000013		
法人名	医療法人 博愛会		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	福岡県京都郡苅田町大字提字唐松2781番地		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果確定日	平成23年4月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が毎日笑顔で過ごせるよう、楽しい雰囲気作りをしている。
 家族との繋がりを大切にして頂けるよう、イベント事のお誘いや、面会時には居室で家族やお友達と一緒に団楽をする。
 利用者一人ひとりに合ったリハビリ計画を作成し、現状維持に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くを時刻代わりになる日豊本線の列車が通過する広い敷地内に、平屋建てのグループホーム「まごころ」は位置し、併設されている老人保健施設やデイサービス、通所リハビリセンター等との連携を活かし、法人の組織力やマン・パワーをサービスの向上につなげている。利用者の方々のお気に入りには、庭や畑を眺め、季節の移り変わりが実感できる明るい日差しのリビングであり、絶え間なく続く掛け合いの話し声や笑い声、息のあった歌声が賑やかなホームである。特に家族と共有する時間を大切にされ、面会が頻繁で、戸外の催し会にも家族が同伴されている。その機会に家族会も設けられ、家族も参画した運営を重視されている。また、法人内の連携を活かした専門職のアドバイスが、日常の体操やレクリエーション、口腔ケアに活かされ、個々人の介護計画に繋がっている。年間目標に報告・連絡・相談の徹底を掲げられ、一層のチームケアの充実に取り組んでいるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎日朝礼時に唱和し、意識付けを行っている。	玄関には、法人理念と共に、グループホーム独自の理念が掲示されている。地域密着型サービスとしての視点が加えられ、理解しやすい言葉で表記されている。グループホームとしての年度の目標も掲示されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の盆踊りに利用者全員参加し、一緒に踊り、公民館行事にも参加させて頂いている。	法人として自治会に加入し、消防団も参加する地域一体となった防火避難訓練が行なわれている。また地域主催の盆踊りに敷地内の広場を提供し、利用者も参加されている。散歩コースでは園児とふれ合ったり、近所の方より野菜を頂くなど、身近な交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方や地域の方に畑の野菜や漬物を持って来て頂いたり、「庭に花を植えたので、春になったら見に来て」と声を掛けて頂く等、誰でも気安い雰囲気心掛けています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社協、包括、区長、民生委員、家族の参加で意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	定期的に行なわれており、運営状況の透明性の確保に努めている。家族会からも会長・副会長が参加され、多面からの検討を行っている。地域代表からも行事案内等があり、相互に情報提供が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会時、ケアサービスの報告や、アドバイスを頂いたりしている。	行政から運営推進会議への出席があり、グループホームの特性を踏まえて、行事や外出、催し等、また利用者の状況報告を行い、運営内容を明瞭にし理解していただく機会とされている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠については家族の了解を得て、外からの入室は可能とし、内から外には出られないようにしている。	特に言葉による抑制に意識を持ちながら、職員間で共通認識を図っている。玄関の施錠については、家族の意向もあり、運営推進会議の議題としても取り上げながら検討を重ねている。外出の意向がある場合には、出来る限り寄り添う支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設している介護老人保健施設と合同の勉強会に参加、学んだことを全員が理解するように働きかける。		

福岡県 グループホーム まごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットは準備している。必要な方への支援の準備は行なっている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はないが、資料を整備し、法人として活用に向けた支援が行えるよう体制の整備に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族は納得して頂けるものの、本人は理解できない。時間を掛けて納得して頂けるよう説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置しているものの、活用されていない。面会時、家族会時に意見、要望を出して頂き運営に反映している。	行事や催し物に家族の参加を得て、その後家族会が開かれている。庭に出るスロープの設置やボランティアについて、また、看取りについても意見や要望をいただき、運営への反映に努めている。家族の協力の中、ホームの畑作りが行われている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い、代表者に参加してもらい要望や提案を出し、反映している。	母体法人より、代表者も朝のミーティングに参加し、職員の意見も活発であり具体的な内容となっている。職員の提案でリビングのテレビが大型となり、利用者の方々からも喜ばれている。意見や提案事項は申し送り簿に記入し、各自必ず読みサインをし、情報の共有を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう、少しずつであるが待遇面でも考慮されている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の固定化が定着し、働きやすい職場環境になるよう心掛けている。	採用にあたっては人柄が重視され、年齢や性別による排除は行わないようにしている。チームケアを大切にし、法人として、管理者として、馴染みの職員による支援の継続や、職員のモチベーション維持に向けて、待遇の配慮に努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加している。入居者に対して、敬語は使わないが、思いやる言葉掛けを心掛けている。	高齢者虐待防止や身体拘束等、法人内の年間研修計画に則り参加されている。高齢者への尊厳を大事にした接遇を指導している。	

福岡県 グループホーム まごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接する同法施設での勉強会に参加している。外部研修にも職員自ら意欲を持って参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、京築地区のグループホーム連絡協議会に参加し、交流や情報交換の機会を持っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族のみの入居申し込みが多く、入居日決定後は入居施設へ出向き、嗜好や趣味などを聞き、グループホームでホームの皆さんや職員が待っていると、安心出来る事を伝える。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後は、家族の思いやご本人の思いを傾聴して、安心して暮らせるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設している介護老人保健施設の相談員と月1回のミーティングを行い、対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護しているのではなく、利用者の目線に立って物を見るよう心掛ける。利用者から、食器の後片付けも自発的にされ、お願いしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運動会、クリスマス会、バスハイク等には8割の家族が出席、家族のお弁当も作り、利用者、家族、職員が共に本人を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅でのヘルパーさんや息子さんのお友達等、面会に来られる。職員は、「いつでも会いに来てください」の雰囲気づくりに心掛けている。	お盆や正月に自宅で過ごすことや、長寿のお祝い、結婚式に出席する事を共に喜んでい。また家族や知人の面会を歓迎し、水入らずで過せるよう配慮している。	

福岡県 グループホーム まごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の小競り合いがある。その時々 の状況に応じて対応を行い、心地よく過 して頂けるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後他の精神科、併設の施設へ入所とな り、家族へその後の状況や困っていないか の電話での問いかけは行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	カラオケ、将棋、お花、台所の手伝いと、希 望や得意としている事を見出し、対応をして いる。	入居時の情報収集は、家族や以前利用され ていた施設、また退院時の看護添書より、詳 細に記録されている。また担当者会議等 でも、各職員の知り得た情報を検討、共有され ている。	入所までの生活歴や家族構成等が詳 細に残されているが、その人の「思 い」や「感情」に結びつく情報が少ない と思われる。日々の関わりや家族から の情報等を整理されると、その人なり の個性が顕著になり、職員全体で共 有できると考えます。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前に本人と話す以外にも、家族や担当 のケアマネージャー、在宅サービス事業者 等、入居前に関わりのあった人や事業所 等、連絡、相談し、職員への周知を図っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	併設の老健の理学療法士からアドバイスを 受け、その人にあたりハビリを実施し、職 員がその人の有する能力を引き出せるよう 努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	必要に応じて、利用者の課題とケアのやり 方について、本人、主治医、家族、関係者と 話し合い、介護計画書を作成している。	同法人内の機能訓練指導員と相談し、ホー ム内でできるリハビリを介護計画に組み込 み、チェック表を用い実践する等、法人内の 専門職の連携や医師のアドバイスが反映さ れている。具体的な文言で表記されている介 護計画は、定期的にモニタリングされ、見直 しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践を個別の記録に記 入し、申し送りノート、ミーティングで情報を 共有している。		

福岡県 グループホーム まごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、お盆、お正月の帰宅、家族のお祝い事等、本人、家族の要望に応じて柔軟に支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区による「高齢者の集い」に参加。昼食も地域の方達と一緒に頂いて、カラオケに参加する等、地域の方たちも受け入れて頂いている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望する医療機関を利用している。 まごころの主治医(桑原医院)が、熱が出た時や相談事はすぐ対応、往診も可能である。	体調やバイタルサインの記録をもとに、診察時に正確な情報提供が行なわれている。協力医とは、日常的に連絡・報告を行い、受診または往診による、適切な医療活用を支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が非常勤ではあるが対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療ソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行なっている。 面会に行くなど、早期退院できるよう、努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時にはかかりつけ医や看護師と連携をとり、対応している。	重度化や終末期のあり方については、入居時に方針を説明し、隣接する同法人老人保健施設や協力医療機関との連携を図りながら対応することを説明している。家族と情報や方針を共有しながら状況の変化に対応している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の対応マニュアルや、救命講習は職員全員受講している。		

福岡県 グループホーム まごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を3回、消防署及び、地域の消防団の方々と交えて利用者共々訓練を行った。	敷地内にある同法人施設と共に、夜勤・日勤を想定した避難訓練が行なわれている。地域の消防団員の参加もあり、職員が利用者を避難誘導する場面を見学してもらっている。地域の方々へ、ホームの特徴や認知症の方について、理解と協力が得られる貴重な機会とされていた。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、全員「さん」づけで呼んでいる。 個人記録は施錠できる所に保管している。	個々の生活習慣や、その時々意向に沿った自己決定の場面を大切にしている。個人情報取り扱いには充分留意し、職員間でも意識しながら、責任ある取り扱いに努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時、利用者同士、希望を聞いてもらい提供する。 食器洗い時、職員へ、「私が洗うよ」と自ら手伝いに来られる。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はしていないが1日をフロアで皆さんと過ごす事が多い。 来客時は自室でゆっくりお話をしてもらっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は化粧水をつけたり、お出掛け時は化粧をし、お出掛け着を着て出掛ける。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回バイキング料理を提供。家族と共に食事をする。レストランへ年に5~6回、利用者全員で出掛ける。	食前には、明るいメロディーの「青い山脈」の替え歌を歌いながら口腔体操を行い、テーブル拭き等の準備が始まる。食事は職員と一緒に同じ料理をとられ、ゆっくりと時間をかけ、会話を楽しまれていた。旬の食材や行事にちなんだ一品により、季節感を感じてもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量のチェック、併設の老健施設の管理栄養士による治療食や献立の相談を行なう。		

福岡県 グループホーム まごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯に関しては週2回洗浄液を使用している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トレーニングパンツを使用している方は2時間おきのトイレ誘導、訴え時にはその都度対応している。	尿意の無い方やコミュニケーションが難しい方の排泄について、試行錯誤しながら検討を重ねている。特に退院後の排泄の自立については、トイレでの排泄を目標に、細やかな支援に努めている。経済的にもオムツを使用しない方針を採られている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘時には看護師により処置を施行。 牛乳を飲んだり、運動を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていない。	入浴用の温湯を他の施設と併用されるシステム上、週3回の入浴曜日が決まっているが、発熱ある場合を除き、全員入浴されている。アロエ軟膏を塗布して、冬場の乾燥肌を防止したり、入浴後の飲み物にも配慮し、楽しい入浴になるよう工夫されている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は自由にしている。起床は声かけにて起きていただき、朝食を共にしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師により指示を受け、病状の変化等は主治医の指示、往診を受ける。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いの当番制や役割を持って、出来る事を支援している。		

福岡県 グループホーム まごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>戸外に出かける機会を作るようにしているが、個々のニーズに合わせるまでには至っていない。</p> <p>家族の協力の下、家族と共に出掛けられる。</p>	<p>併設事業所の送迎車を利用し、家族と共に、出掛ける機会も多い。家族の弁当も用意し、最近では網敷天満宮へ観梅に行く等、時節や行事でドライブに出かけている。また、天候のよい日は、近くの公園や隣接する保育所にて、季節の花を摘んだり、園児とふれ合ったりと散策を楽しまれている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人がお金を使うことはない。</p> <p>初詣に出掛け、お賽銭をそれぞれ持ってお参りされた。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状を利用者から家族へ出したり、家族からの電話を受け継いだり、こちらから家族へ電話をする等の支援を行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日当たりの良いリビングには、テレビ、テーブル、ソファを配置している。2面からの採光により、明るく、開放感のある空間となっている。</p> <p>玄関には四季の花を生けている。</p>	<p>明るく開放的な玄関には、お雛様や椿、菜の花等、季節に応じた飾り付けが行われていた。採光や、風通しがよいリビングは、調理や配食、配膳の音が聞こえる厨房や、いつも職員の動きを身近に感じる記録室と接している。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ベッドには一人ひとりの状況に応じた様々なタイプが用意されている。家族やお友達の面会時はテーブルを準備し、お茶を頂く等、工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時、使い慣れた布団や家具等を準備し、各自個性を生かした、居心地良い工夫をしている。</p>	<p>その人らしい生活空間となるよう、家族と共に取り組んでいる。馴染みの家具や好みの飾り物、大切な写真、また好きな音楽が楽しめるようラジカセ等も置かれ、個性に合わせて設定・工夫が行なわれていた。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関へはバリアフリーを施行。</p> <p>居室にはネームプレートを設置し、自分の名前を確認される。</p> <p>食器洗いをする人、トレーを拭く人、掃除の時の雑巾がけ等、役割分担を決めている。</p>		